

2023年（令和5年） 研究業績

講座名：リハビリテーション医学

所属長名：藤原 俊之

区分	番号	学位論文	全著者名,論文名,掲載誌名,掲載年;巻(号):ページ番号	国際共同
英文原著	1		R Tanaka, Fushiki H, Tsunoda R, Kamo T, Kato T, Ogihara H, Azami M, Honaga K, Fujiwara T. Effect of Vestibular Rehabilitation Program Using a Booklet in Patients with Chronic Peripheral Vestibular Hypofunction: A Randomized Controlled Trial. Prog Rehabil Med., 2023 Jan 14;8:20230002.	
英文原著	2	*	Murakami Y, Honaga K, Kono H, Haruyama K, Yamaguchi T, Tani M, Isayama R, Takakura T, Tanuma A, Hatori K, Wada F, Fujiwara T. New Artificial Intelligence-Integrated Electromyography-Driven Robot Hand for Upper Extremity Rehabilitation of Patients With Stroke: A Randomized, Controlled Trial. Neurorehabil Neural Repair. 2023 May;37(5):298-306.	
英文原著	3		Takahashi Y, Morisawa T, Okamoto H, Matsumoto N, Saitoh M, Takahashi T, Fujiwara T. Relationship Between Skeletal Muscle Quality and Hospital-Acquired Disability in Patients With Sepsis Admitted to the ICU: A Pilot Study. Crit Care Explor. 2023 Jan 6;5(1):e0835.	
英文原著	4		Takahashi Y, Morisawa T, Okamoto H, Nakanishi N, Matsumoto N, Saitoh M, Takahashi T, Fujiwara T. Diaphragm Dysfunction and ICU-Acquired Weakness in Septic Shock Patients with or without Mechanical Ventilation: A Pilot Prospective Observational Study. J Clin Med. 2023 Aug 9;12(16):5191.	
英文原著	5		Suzuki T, Tsuji O, Ichikawa M, Ishii R, Nagoshi N, Kawakami M, Watanabe K, Matsumoto M, Tsuji T, Fujiwara T. Early Phase Functional Recovery after Spinal Intramedullary Tumor Resection Could Predict Ambulatory Capacity at 1 Year after Surgery. Asian Spine J. 2023 Apr;17(2):355-364. doi: 10.31616/asj.2022.0068. Epub 2023 Jan 10.	
英文原著	6		Takahashi T, Morisawa T, Saitoh M, Iwatsu K, Fujiwara T, Daida H. Home Based Exercise Rehabilitation Programs to Prevent Physical Frailty and Hospitalization-Associated Disability. Juntendo Medical Journal 2023. https://doi.org/10.14789/jmj.JMJ23-0034-P	
区分	番号		全著者名,論文名,掲載誌名,掲載年;巻(号):ページ番号	国際共同
英文症例報告	1		Hatori K, Tagawa Y, Hatano T, Akiyama O, Izawa N, Kondo A, Sato K, Watanabe A, Hattori N, Fujiwara T. A Case of Tardive Dystonia with Task Specificity Confined to the Lower Extremities only during Walking. Prog Rehabil Med. 2023 May 12;8:20230014. doi: 10.2490/prm.20230014. eCollection 2023.	
英文症例報告	2		Abulimiti A, Nishitani-Yokoyama M, Kato T, Doi M, Honzawa A, Sato Y, Nishimura J, Mochizuki M, Watanabe H, Shimada K, Kasuya H, Fujiwara K, Nozawa Y, Xu J, Fujiwara T, Minamino T. The importance of psychosocial support in youth dilated cardiomyopathy patient who underwent cardiac rehabilitation. J Cardiol Cases. 2023 Apr 21;28(1):44-48. doi: 10.1016/j.jccase.2023.03.004. eCollection 2023 Jul.	
区分	番号		発表者名,発表タイトル(題目・演題・課題等),学会名,場所,発表年月日等	国際共同
国際学会発表	1		Hayasaka S,Novel characteristics of the temporal transition to maximum tongue pressuer in Parkinson’s disease: A pilot study,IAPRD - XXVIII World Congress on Parkinson's Disease and Related Disorders,Chicago,USA, 2023/3/4	
国際学会発表	2		Takahashi Y, Yamaguchi T, Haruyama K, Fujiwara T. The effect of femoral nerve electrical stimulation and patellar tendon vibration on spinal heteronymous pathways. ACPT congress 2023, Thailand, 2023/11/25	
国際学会発表	3		Matsuda T, Sato K, Kitahara E, Fujino Y, Fujiwara T, Hattori N. Case series of PD patients with and without immobility symptoms and gait function – Three-dimensional motion analysis. 6th World Parkinson Congress, Barcelona, 2023/7/4	

区分	番号	全著者名,論文名,掲載誌名, 掲載年 ; 巻 (号) : ページ番号	国際共同
和文総説	1	阿瀬寛幸, 骨転移を有する対象者への作業療法, 作業療法ジャーナル, 2023; 57(8): 934-939	
和文総説	2	石渡正浩,脳卒中後起居動作の予後予測と目標設定,理学療法ジャーナル,202;57(6):651-657	
和文総説	3	高倉 朋和, 藤原 俊之【神経系リハビリテーションの新潮流-機能回復治療に革新をもたらす最新の知見】磁気刺激療法の新たな応用 認知機能改善に向けた反復経頭蓋磁気刺激療法(解説)、医学のあゆみ, 2023;285 (8) : 731-735	
和文総説	4	藤原 俊之, 阿瀬 寛幸, 【リハビリテーション診療update】(VI章)その他・今後の展開 Virtual reality(VR)を用いたリハビリテーション治療, 日本医師会雑誌, 2023; 152: S298-S299	
和文総説	5	藤原 俊之, 【脳損傷後の神経可塑性変化Up To Date】歩行運動機能改善を促すNeuromodulation, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 2023; 60: 780-784	
和文総説	6	補永 薫, 知っておきたい神経科学のキーワード 運動誘発電位の基礎と臨床応用, Journal of Clinical Rehabilitation, 2023; 32: 884-888	
和文総説	7	補永 薫, 藤原 俊之,【令和の脳卒中デバート10番勝負-脳卒中治療ガイドライン2021とその先を識る】デバート・セクション 10番勝負 脳卒中の急性期リハビリテーション Con 脳卒中の病態が安定した後にリハビリテーションを開始する,Medicina, 2023; 60: 506-508	
和文総説	8	阿部 薫, 藤原 俊之, 【リハビリテーション診療に必要な動作解析】手・手指の障害とリハビリテーション診療, MEDICAL REHABILITATION, 2023; 289:132-137	
区分	番号	全著者名,書籍名,出版社名, 出版年, ページ番号等	国際共同
和文著書	1	寺門厚彦, 四肢切断術のすべて 切断術の合併症, メジカルビュー社, 2023年, p.19-23	
和文著書	2	阿瀬寛幸, 終末期がん患者に対する緩和的作業療法 骨転移, 協同医書出版社, 2023, 93-102	
和文著書	3	田沼明, 患者さんのためのがんのリハビリテーション診療Q&A, 金原出版, 2023, pp20-24	
区分	番号	発表者名,発表タイトル(題目・演題・課題等),学会名,場所,発表年月日等	国際共同
国内学会発表	1	高野圭太, 健常者におけるベグリング運動と経皮的脊髄電気刺激の併用がposterior root muscle reflexesに与える影響, 第53回日本臨床神経生理学会, 福岡, 2023年12月1日	
国内学会発表	2	加藤 恵, 渡辺 淳志, 中島 壮崇, COVID-19肺炎によるcritical illness polyneuropathyを発症し、回復期リハビリテーションを行った1例, 第60回日本リハビリテーション医学会学術集会, 福岡, 2023年6月29日	
国内学会発表	3	加藤 恵, 渡辺 淳志, 当院のCOVID19オミクロン変異株肺炎後廃用症候群のリハビリテーション治療成績の検討, 第60回日本リハビリテーション医学会学術集会, 福岡, 2023年6月29日	
国内学会発表	4	阿瀬寛幸, 重度の手足症候群により日常生活動作が困難となった下咽頭癌症例に対する作業療法介入, 第8回日本がんサポーターケア学会学術集会, 奈良, 2023年6月24日	

国内学会発表	5	阿瀬寛幸, 吉澤 卓馬, 袴田 裕未, 藤原 俊之, 生活期脳卒中患者に対する外来でのバーチャルリアリティとHANDS protocolを用いた複合的アプローチ: 症例報告, 第57回日本作業療法学会, 沖縄, 2023年11月11日	
国内学会発表	6	植田修二郎, 急性期脳卒中患者における肘関節屈曲 MMT とActive Finger Extension を用いた発症後 3 週のADL 予後予測, STROKE2023, パシフィコ横浜, 2023年3月11日	
国内学会発表	7	植田修二郎, 北野 花穂子, 保田 由美子, 羽鳥 浩三, 藤原 俊之, 急性期脳卒中片麻痺患者における3軸加速度計を用いた上肢活動量の解析方法, 第57回日本作業療法学会, 沖縄, 2023年11月11日	
国内学会発表	8	村上悠平, 補永薫, 鴨下海太, 武中真衣, 平松永彬, 山本彩織, 谷真美, 諫山玲名, 藤原俊之. 脳卒中上肢麻痺患者に対するAI-integrated EMG-driven robotの治療効果良好群における介入前特性の検討, 第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 宮崎県, 2023年11月5日	
国内学会発表	9	佐藤孝嗣, 随意運動中の神経筋電気刺激の付加が前脛骨筋の筋収縮動態に及ぼす影響, 第28回日本基礎理学療法学会学術大会, 広島, 2023年12月3日	
国内学会発表	10	林祐介, 急性期脳卒中重度歩行障害例に対する長下肢装具の適用と効果 (共催シンポジウム1-日本支援工学理学療法学会、日本物理療法学会 合同企画), 第21回日本神経理学療法学会学術集会, 神奈川, 2023年9月9日	
国内学会発表	11	林祐介, 山崎皓太, 小松慎弥, 山本尚明, 小林優介, 斎藤哲平, 佐藤和命, 竹内皓太, 羽鳥浩三, 藤原俊之, 急性期脳卒中片麻痺患者における短下肢装具装着下と非装着下での歩行特徴の差異〜クロスオーバー試験〜 (一般演題), 第21回日本神経理学療法学会学術集会, 2023年9月10日	
国内学会発表	12	山本尚明, 林祐介, 山崎皓太, 小松慎弥, 小林優介, 斎藤哲平, 佐藤和命, 竹内皓太, 羽鳥浩三, 藤原俊之, 急性期脳卒中患者において下肢位置覚障害の重症度と歩行自立度との関連〜脳卒中機能障害評価法による検討 (一般演題), 第21回日本神経理学療法学会学術集会, 神奈川, 2023年9月10日	
国内学会発表	13	山崎皓太, 林 祐介, 佐藤和命, 羽鳥浩三, 藤原俊之, 歩行自立度評価法のスコアに従い下肢装具の種類を選定して歩行練習を実施した脳卒中一症例の理学療法経過 (一般演題), 第21回日本神経理学療法学会学術集会, 神奈川, 2023年9月9日	
国内学会発表	14	四津谷知佳, 林祐介, 永野玲奈, 渡辺新之助, 高橋佳暉, 佐藤和命, 竹内皓太, 羽鳥浩三, 人工膝関節全置換術後患者における術後早期の歩容評価およびその関連因子の検討, 第11回日本運動器理学療法学会学術大会 (セレクション演題), 福岡, 2023年10月14日	
国内学会発表	15	武田晃一, 國枝洋太, 林祐介, 小山真吾, 河村康平, 佐藤和命, 森沢知之, 高橋哲也, 羽鳥浩三, 藤原俊之, 地域在住高齢者における立ち上がり能力に影響する骨格筋機能指標 (一般演題), 第10回日本地域理学療法学会学術大会, 北海道, 2023年10月28日	
国内学会発表	16	田沼明, 杉原進介, 田尻寿子, 明崎禎輝, 笠谷美保, 盛啓太, 辻哲也, 乳がん術後の外来リハビリテーション治療に関するランダム化比較試験 (ORBS試験) 進捗報告, 第11回日本がんリハビリテーション研究会, 名古屋, 2023年3月11日	
国内学会発表	17	藤原俊之, Transcutaneous spinal electrical stimulation for gait rehabilitation among patients with stroke, 第53回日本臨床神経生理学会学術大会, 福岡, 2023年12月1日	
区分	番号	講演者名, 講演タイトル, 学会名, 場所, 発表年月日等	国際共同
特別講演・招待講演	1	寺門厚彦, 東京オリンピック自転車競技帯同ドクターの経験から, 静岡県医師会スポーツ医学研修会, 静岡県医師会館, 2023年3月11日	
特別講演・招待講演	2	寺門厚彦, 東京オリンピック自転車競技帯同ドクターの経験から, 三島市医師会学術講演会, 三島市医師会館, 2023年7月21日	
特別講演・招待講演	3	阿瀬寛幸, 学会長講演: Face to Face 作業で結ぶ東京の未来, 第19回東京都作業療法学会, 東京, 2023年7月2日	
特別講演・招待講演	4	阿瀬寛幸, がん専門作業療法士セミナー: がんの作業療法の「今」に注目し、課題解決の糸口を探る, 第57回日本作業療法学会, 沖縄, 2023年11月10日	

特別講演・招待講演	5	高倉朋和, 認知症予防のために知っておきたい栄養・運動と認知リハビリテーション, 順天堂大学第51回都民公開講座、順天堂大学・お茶の水キャンパス 小川講堂、2023年6月17日	
特別講演・招待講演	6	高倉朋和, 令和5年度 第6回区民健康講座 フレイル・認知症予防 知っておきたい運動・食事・栄養の知識, 順天堂東京江東高齢者医療センタ、2023年11月4日	
特別講演・招待講演	7	諫山玲名、補永薫、藤原俊之、リハビリテーションに活かす筋電図検査 ケーススタディー：治療法の決定に筋電図検査が有用であった重度腕神経損傷の一例, ワークショップ1（筋電図・臨床神経生理SIG企画）, 第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会 2023年11月4日, 宮崎	
特別講演・招待講演	8	諫山玲名, パーキンソン病と磁気刺激について, 第4回KPUM neurology conference, 京都, 2023年1月28日 (Online)	
特別講演・招待講演	9	補永薫, リハビリテーション医療に活かす筋電図検査, 第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術大会, 宮崎, 2023年11月3日	
特別講演・招待講演	10	補永薫, ボツリヌス療法の理論と実践～余裕のある生活を目指して～, GSK東日本痙縮Webセミナー, 東京, 2023年12月6日	
特別講演・招待講演	11	田沼明, リハビリテーションとExercise Oncology, 第8回日本がんサポーターケア学会学術集会, 奈良, 2023年6月23日	
特別講演・招待講演	12	田沼明, がんリハビリテーション領域における研究の最新動向, 第60回日本リハビリテーション学会学術集会, 福岡, 2023年6月30日	
特別講演・招待講演	13	藤原俊之, 補永薫, 山口智史, 高橋容子. リハビリテーションコース 神経伝導検査(F波、表面筋電図、H反射、相反性抑制) . 第17回臨床神経生理技術講習会・東京. 2023年9月3日	
特別講演・招待講演	14	藤原俊之, リハビリテーション医学の進歩, 第41回日本神経治療学会, 第41回日本神経治療学会, 東京, 2023年11月5日	
特別講演・招待講演	15	藤原俊之, 脊髄反射と歩行, 第53回日本臨床神経生理学会, 福岡, 2023年12月1日	
特別講演・招待講演	16	藤原俊之, 脊髄刺激 歩行障害に対する経皮的脊髄電気刺激システム, 第53回日本臨床神経生理学会, 福岡, 2023年11月31日	
特別講演・招待講演	17	藤原俊之, 脳卒中上肢機能障害に対する新しいリハビリテーション治療, 第60回日本リハビリテーション医学会, 福岡, 2023年7月1日	
特別講演・招待講演	18	藤原俊之, 未梢磁気刺激のリハビリテーション治療への応用, 第60回日本リハビリテーション医学会, 福岡, 2023年6月30日	
区分	番号	発明者名, 発明の名称, 出願番号	国際共同
知的財産権の出願・取得等	1	藤原俊之, 仮想現実運動電気薬学治療機器, 特願2023-102268	